あいさつ

地域と結びついた発展を

田　坂　賢　二
岡山大学薬学部

実験動物と動物実験は語句が単に入れ替わったにすぎないが，意味する所には大きな違いがある。しかし，この両者にはお互いに共通する部分が多く，密接に関連しているのもまた事実である。例えば，特殊な反応系をもつ実験動物が開発されるとその特殊性と結びついた動物実験が，グローバルなレベルで一斉に行われるのをしばしば経験する。

動物に嘔吐を惹起させるのはかなり困難な事である。勿論，催吐薬なる薬物があり，これを経口または非経口に動物に投与すると，嘔吐中枢が興奮し，嘔吐が誘発されるというのはほとんど全ての薬理の教科書に記載してある。但し，事は簡単には運ばない。また，末梢側から中枢側に向ってくるインパルスが，嘔吐中枢を興奮させるというのは，嘔吐をおこす機序として殆んどの人に理解されている。ところが，これを動物実験で証明するのは技術的に非常に困難である。多くの種族で嘔吐中枢とおぼしきあたりに，種々な中枢性催吐薬を塗布しても，動物は全く反応しない。果たして本当に嘔吐を起すのか否か，来る日も来る日も同じ実験を反復するのは，目の前が暗くなるような実験である。まして，同一の動物で繰り返し嘔吐を惹起させ，その間に投与した薬物が嘔吐を抑制したか否かを調べるとなると，その困難さは絶望的になってくる。

しかし，最近スンクスなる動物が，変わった習性をもっていることが判ってきた。それは動物を空中に軽くほうり上げるだけで，人間の嘔吐とよく似た現象を惹起することが判ってきたからである。嘔吐の起り方は，当然，前庭神経刺激を介した加速度病的な色彩が強いと思われる。ヒトで起こる嘔吐には，極めて多くの機序が関与するが，とりあえず前庭神経を介する催吐機序の解明には大きな手がかりを得た訳である。実験動物の有用性が，痛感された１例である。

この度，岡山実験動物研究会長を猪教授より引き継ぐことになりました。私は動物実験が専門ですが，実験動物の重要性は骨身に泌みて承知しておりますので，なんとかこの研究会が大きく成長していくようにと念願しております。

岡山で生れたこの実験動物研究会が，この地域と密接に結びつきながら，地域のためになんらかの貢献ができるような研究会活動を展開していければというのが私の念願している所です。岡山県及びその周辺に居住されていながら，まだ本会に参加していただいていない研究施設も数多いのが現状です。このような方々にもできるだけ参加していただけるような，魅力ある研究会づくりを積極的に展開し，研究人口も拡大していきたいと思っています。地域で生れたものを地域全体で育てていくというのは，現代を生きる人々の最も基本的な姿勢の１つではないかと思います。グローバルなものへの志向が必須なのは言うまでもありませんが，地域に対して何等かの力となりうるような研究会でありたいと思っています。このような研究会へと成長できますように，皆様方のお力添えを賜りますようお願い申し上げる次第です。